

問題点を解決していくため、委員会では二つの検討事項を挙げた。一つは「施設の統合」。これを進めていくためには「市が、実情を住民に理解してもらった上で、延長制度の拡大や送迎バスの運行など、よりきめ細

「わくわく」の活動はほかの運動も生み出した。クラブの中で幼児、小学生の子を持つ共働きの母親たちが、「学童保育を作る会」を結成。保育園を上がった子供たちを共同で見ているという事になった。

会の堀沢朝子さん(大通南四)は、「一人で悩んでも解決しない。集まってこそいろいろ考えられ、勉強し合える」と言う。

「世の中には、子供を育てている人

以下は、報告の概要である。施設の面では、特に木造の七つの施設で老朽化が著しい。建設されてから三十年以上経過している施設は三つ、中には築四十二年という所もある。

加えて、農村部では過疎化が進み、半数以上の施設で定員を下回っている。中には、定員に対する子供の数が二〇〜三〇%と、大きく定員を割っている施設もある。

団地造成で人口が急増し、定員を上回る児童がいると推察される大通地区の保育園でも、入所数は定員を下回っている。これは、子供を幼稚園に通わせたり、共働きで特別保育が必要な保護者たちが子供を市外の保育園へ通わせたりしているため。保育ニーズが多様化していることを表している。

施設・サービス面が十分に行き届かないことによるこれらの問題は、保育園数の多さと関連している。市内の保育園数は、県内二十市の中でも上位に位置する。このため、さまざまな弊害が起きている。「施設数が多いため、老朽化した施設を新しくするまでには時間がかかってしまう」、「それぞれの施設の維持費がかさむ」、「人手が不足して延長保育などの特別保育サービスを拡大できない」などである。

やかなサービスをしていく努力が必要」としている。どの施設をどう統合していくかは、効率よく経費を使うために、「基本的には、今ある比較的新しい施設に老朽施設を統合することが望ましい」とする。

もう一つは、「民間活力の導入」つまり私立保育園の誘致。今までの行政だけによる保育園運営を考え直し、足りない部分については、積極的に民間の手を借りていくという事である。

県下二十市の私立と公立の認可保育園の割合を見ると、私立が三六・三%、公立が六三・七%となっている。白根市は私立保育園が一つもないが、この割合からすると、五つが私立の保育園で対応できるということになる。「老朽化した施設の統合を推進する上でも、住民の選択幅の幅を広げる意味からも、積極的に民間の活力を導入すべきである」としている。



▲「今こそ、地域ぐるみの子育てが必要」と語る
織田朝子さん

もいれば、老人、障害者を抱える人もいます。地区によってもニーズは違います。でも困った、困ったと言っているだけでは解決しない。バリアフリーと言われる時代、みんなはどうするべきか考えるときだと思っんです」と語る。

会ではこの冬休み、地区の集会場を使って、初の行事をスタートさせる予定だ。

保育所検討委が報告。 施設の老朽化と 少子化が問題点

保育ニーズの高まりを受け、今年七月、白根市保育所施設整備等検討委員会(高橋末江会長)が発足した。メンバーは市議会議員、自治会代表者と、市内六つの保育園母の会代表、学識経験者の二十五人。今年度は保育園の施設について、来年度は保育内容について、それぞれ検討し、市に報告を行っていく。

施設面については、すでに市内保育園を視察し、現況を聞くなどして、調査、分析を進めてきた。このほど、その結果を第一回の報告書としてまとめ、市に提出した。その中では、市の保育園が抱える問題点として、「保育園施設の老朽化」と「施設の定員に対し

白根市立保育園等の建築年

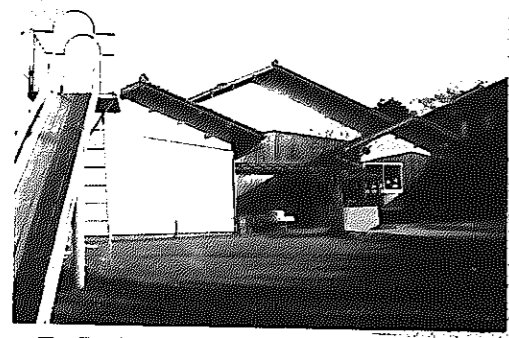
施設名	建築年
上八枚保育園	昭和28年
白蓮保育園	32年
四ツ興野保育園	36年
庄瀬保育園	40年
中央保育園	42年
新飯田保育園	45年
大郷児童館	46年
古川保育園	53年
根岸保育園	54年
茨曾根保育園	55年
鑄物師児童館	56年
諏訪木保育園	56年
大通保育園	57年
小林保育園	61年
大鷲保育園	平成元年
白根保育園	4年
白井保育園	6年



▲上八枚保育園
(昭和28年建築)



▲白蓮保育園
(昭和32年建築)



▲四ツ興野保育園
(昭和36年建築)

て児童数の割合が低いこと」の二つが挙げられている。

市内の十五の保育園と、保育園の機能を持つ二つの児童館のうち、白根、諏訪木、白井、大鷲、古川、根岸、小林の七つの保育園は、施設の状態や入園状況など、全般的に「良好」と判断された。しかし、残りの十施設については、老朽化が進んでいること、入所状況も定員割れとなっていることなどから「問題あり」としている。

